

生産性向上支援訓練カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター

実施機関名： 合同会社ヤオヨロズテック

A. バックオフィス	クラウドを活用した情報共有能力の拡充
クラウド・IoT導入	

コースのねらい	部門や拠点間の情報共有・調整コストの軽減をめざして、クラウドの技術概要や活用事例、活用検討にあたってのポイントを理解し、クラウドを活用した自社業務における情報共有の課題解決に繋げるための能力を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容、演習」	訓練時間 (H)
講義内容	1 情報共有方法とクラウドの活用	(1)業務における情報共有の必要性 ・組織やチームの生産性向上において、日々の業務を円滑に進めるために社内コミュニケーションが活性化する環境を整えて、情報共有することは重要な要素となる。業務における情報共有の目的を考えて必要性を考察する。 【演習】情報共有の必要性と現状分析 (2)情報共有方法の現状 ・総務省が公開している「情報通信白書」から企業でのクラウドサービスの活用状況および利用内容を確認し、活用が進んでいない現状と情報共有方法の現状およびクラウド活用が進まない原因を考察する。 【演習】現状の情報共有の整理 (3)情報共有ツールの活用 ・情報共有ツールを「社内wiki」「チャット・SNS形式」「ファイルの共有」の用途に分けて活用シーンを解説する。 ・情報共有ツールを活用するにあたってどのようなポイントで選定するのがいいのかを理解する。 【演習】情報共有ツールの選定 (4)クラウドを活用した情報共有方法 ・クラウドを活用することで時間・場所を選ばずにアクセスでき、簡単に情報共有が可能。しかも情報の一元管理ができる上に低コストでの導入ができる共有方法を紹介する。 ・容量、セキュリティ対策、機能性などの違いを解説する。 【演習】情報共有のクラウド化検討	3.0
	2 クラウドを活用した情報共有能力の拡充	(1)情報共有プロセスの分析 ・クラウド活用にあたっては、情報共有の流れがどこからどのタイミングでどのくらいなのかを整理、分析する。 ・情報共有プロセス全体を把握することが重要であり、どの情報やプロセスをクラウド活用するのか明確にする。 (2)業務の見える化と課題の洗い出し ・業務プロセスを視覚的に明示することで、ムダ・ムリ・ムラがないか、労力やコストの確認ができる。 ・業務が見えたら、情報共有の課題を洗い出し、クラウドを活用して業務効率化および調整コスト削減できるか考察する。 【演習】情報共有のプロセス見える化と課題洗い出し (3)クラウド活用時の長所と留意点 ・クラウドは運用の手間なく、低コストで導入・運用ができる上、環境さえ整えば、場所を問わずに利用できる。 ・留意点はセキュリティ面での不安要素があること、拡張性が低いことがあり、課題にあったサービスを選択する必要がある。 【演習】クラウドサービスの選定と課題の整理 (4)導入に係る課題解決策立案 ・これまで整理した情報共有プロセスや洗い出した課題から自社にマッチしたクラウドサービスを選定し、課題解決となる案を策定する。導入によるメリットだけではなく、留意点も整理して、実際に情報共有で活用することを想定した経穴案にする。 【演習】DX・IT化の活用戦略の立案	3.0
			合計時間 6.0
			うち演習時間 2.0

カリキュラム作成のポイント(重要)	・専門用語のみを使用せず、可能な限りわかりやすい言葉での説明を行い、企業へのクラウド導入事例を交えて講義を実施します。クラウドの利用を行うことによりどのように生産性が向上されたか、またこれからの生活がどのように変わっていくかの考察を交えて説明いたします。合わせて近年急速に身近になったクラウドサービスの一種である対話型生成AIについても触れ、理解が深まるように実際の利用場面を実演します。 ・業務を便利にするITツール(ChatGPT、RPAツールなど)をその場で仕様や使い方を見てもらったり、リスクリングに使えるサービスなど低コストで使えるものを参考までに紹介します。
-------------------	---